

# 東北地域での栽培に適した、熟期が早く、草丈が短いハトムギ新品種「はときらら」

東北地域はハトムギの栽培が多く、特に岩手県は日本一作付面積が広い産地です。しかし、ハトムギは生育期間が長いので、冷害時には成熟期に達せず減収する場合があります。そのため、熟期が早く低温年でも成熟期に達しやすい品種の育成が必要です。また、ハトムギは草丈が長い作物なので、機械収穫をより効率的に行うためにさらに草丈の短い品種が求められています。今回育成した新品種「はときらら」は熟期が早いので東北地域においても安定して成熟期に達しやすく、草丈が短いので、機械収穫作業が容易です。



はときらら はとじろう  
写真1 / 「はときらら」の草姿

## 《「はときらら」の生い立ちと特徴》

「はときらら」は当センターで育成した早生で短稈の系統「東北1号」に北海道で育成された極早生・極短稈品種「オホーツク1号」を交配し、15年間選抜・固定して育成した品種です。

「はときらら」はこれまで東北地方で最も多く栽培されてきた品種「はとじろう」より、1週間から10日熟期が早く、草丈は20cm程度短いです（表1、写真1）。穀実収量は「はとじろう」と同程度かやや多収です（表1、図1）。「はとじろう」よりも小粒ですが、お茶

品種名	はときらら	はとじろう (標準)
出穂期(月日)	7.18	7.25
成熟期(月日)	9.20	9.30
草丈(cm)	174	193
穀実収量(kg/a)	44.4	43.1
対標準比(%)	103	100
百粒重(g)	12.2	12.9
お茶加工適性	良	良
製品歩留	同等	同等
お茶の香り	良	良
お茶の味	良	良
総合評価	良	良

表1 / 「はときらら」の特性

にする場合、加工適性や製品歩留は「はとじろう」と同等で、味や香りなどの品質も「はとじろう」と同じく「良」と評価されました（表1）。  
現地の適応性試験では、北海道上ノ国町と宮城県登米市、岐阜県飛騨市において標準品種に比べて収量性が優れると評価されました（図1）。

企画管理部業務推進室

加藤 晶子

KATO, Masako



## 《「はときらら」の栽培上の注意》

「はときらら」はハトムギの重要病害である葉枯病に対する抵抗性が「はとじろう」と同程度に弱いので、葉枯病の発生する地帯では注意が必要です。葉枯病発生時には初期に薬剤（ロブラル水和剤（イプロジオン水和剤））を散布し、前年度に葉枯病が発生した圃場では連作を避けて下さい。

「はときらら」を水田で移植栽培すると、直播に比べてさらに短稈となって減収しますので、水田移植栽培には適していません。

「はときらら」はこれまでハトムギの栽培が不安定だった北東北などの地域でも安定して成熟しやすく、収量性も同等かやや優れています。ハトムギ栽培適地の拡大や穀実収量の安定化を通じて、ハトムギ生産の振興に役立つことを願っています。

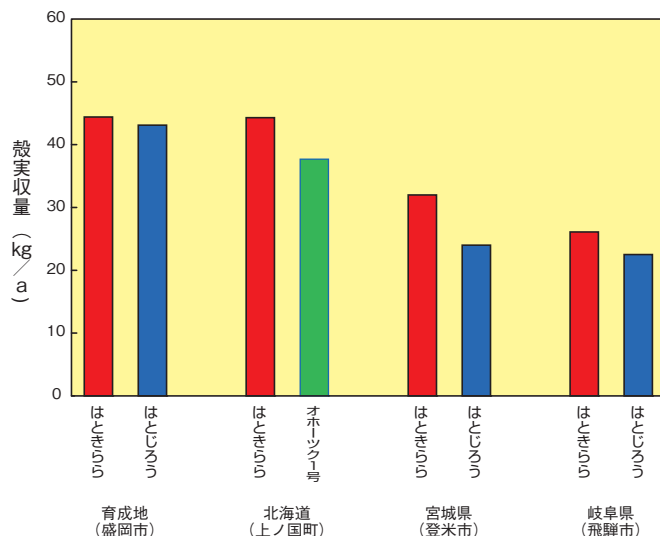


図1 / 「はときらら」と標準品種の穀実収量(kg/a)

盛岡市は2007～2010年の4カ年、上ノ国町は農業指導センターでの試験で2007～2010年の4カ年の平均、登米市は現地試験2009年の1カ年、飛騨市は現地試験2009～2010年の2カ年の平均値。